

「性の多様性教育」における体験型プログラム

内山 瑚々乃（帝京科学大学 環境教育・インタープリテーション研究室）

指導：古瀬 浩史

キーワード：性の多様性教育 LGBT

1. はじめに

日本では性的指向・性自認を理由とする困難が多く存在する。教育の現場ではこの問題に対する早急な対応が求められている。セクシャリティについての自覚は思春期になされるが、思春期を迎える学校教育のなかでの教育は十分になされているとは言えない¹⁾。早期教育を行うことが有効であるが、特に義務教育ではほとんど性の多様性やLGBTの理解教育が行われていないというのが現状である²⁾。必要であるとされているのにも関わらず教育が進まない背景として、教員の知識・理解不足や教員の負担が大きく手が回っていないということが挙げられる²⁾。現状解決のために政府や教育現場、専門家との連携が求められている³⁾。

戸口(2016)らの性の多様性に関する教育実践の研究によると、これまでの日本における性の多様性に関する教育実践の形式は、①レクチャー形式②ワークショップ形式③ゲストスピーチ形式の3つにまとめられ、実践の多くが①レクチャー形式であるという結果であった。それに対して海外の実践として特にオランダ（アムステルダム）では、様々なワークをゲームとして用いることで馴染みやすく学ぶ方法が挙げられている¹⁾。

環境教育の分野では、例えばProject WILDのように体験的な活動を含んだプログラムが普及し、多くの教材や実践事例が日本国内にも存在する。それらの手法は学校教育の分野で「学習者の能動的な学習参加」として注目されているアクティブラーニングと通じるものがある。教育の技法は分野が変わっても共通していると思われ、学校における性の多様性に関する教育においても体験を伴う活動を用いたアプローチが可能なのではないだろうか。

そこで本研究では海外での性の多様性に関する教育のプログラム・実践事例について調査し、日本での性の多様性理解における教育の取り組みについて検討する。なお、ゲーム等の体験型活動を含んだ教育活動は「アクティビティ」と呼ばれることも多いが、本稿ではプログラムに統一する。

2. 方法

(1) 海外事例の検索

性の多様性教育における海外の事例をインターネットを使用し調査を行った。検索ワードは主に以下のとおりである。

- ・gender diversity
- ・gender diversity activity
- ・gender diversity classroom lesson

なお、ジェンダーの問題の中でも、今回の研究では男女間の差別等は取り扱わないこととした。

(2) プログラムの分析

分析項目として「所要時間」「対象年齢」「教育的技法と手順」の3項目を設定し、それぞれのプログラムについて調査した。「対象年齢」に関して、本研究では日本で行われている6-3-3-4制の学校制度に当てはめて記載をする。それらの結果をまとめ、日本での性の多様性理解における教育の取り組みについて検討する。

3. 結果

(1) プログラムを掲載していた組織・団体等

インターネット調査では4つのサイトと56のプログラム事例を確認することができた。4つのサイトについて、簡単に紹介する。

- ・EdChange The Multicultural Pavilion（プログラム5例）

EdChangeは、教育の公平性と正義のために尽力する、情熱的で経験豊かな教育者のチーム。この共通のビジョンのもと、学校、そして社会の進歩的な変化に貢献するリソース、ワークショップ、プロジェクトを開発している⁴⁾。

- ・Human Rights Campaign（プログラム35例）

HRC財団の「ウェルカム・スクール」。小学校の教育者に研修と教育リソースを提供する全米一の専門家庭教育プログラム。「すべての家族を受け入れる」「LGBTQ+とジェンダーのインクルーシブな学校づくり」「偏見に基づくいじめの防止」「トランスジェンダーとノンバイナリーの生徒のサポート」に取り組んでいる⁵⁾。

- ・Human rights Resource Center(プログラム14例)

ジャカルタの国立インドネシア大学に本部を置く非営利の学術センター。東南アジア全域にパートナーシップ・ネットワークを有している。ASEAN（東南アジア諸国連合）にとって最も差し迫った関心のある人権問題について、質の高い、独立した研究を生み出す機関ネットワークを育成するために設立された。ASEAN の全ての人が自分達の権利を知り、理解し、それを実現することができるような、情報に基づいたコミュニティの育成を目指す⁶⁾。

・GIRES(プログラム 2 例)

Gender Identity research & Education Society（ジェンダーアイデンティティ研究・教育学会）。非バイナリーと非ジェンダーを含む全ての年齢層のトランスとジェンダーの様々な人々の生活を改善することを目的とする英国の広い組織。ボランティア運営の会員慈善団体⁷⁾。

(2) プログラムの分析

(i) 所要時間

プログラムの所要時間について、図 1 に整理した。ひとつのプログラムの所用時間は 1 時間以内のものが 56 例中 31 例、1 時間以上が 16 例、記載なしが 9 例という結果であった。また所要時間が 1 時間以上の 16 例のうち 14 例がプログラムを複数回にわけて行うことが可能であるとの記載がされていた。詳細は次の通りである。20 分×3 セット、35 分+45 分、40 分×3~4 回、1 時間+展示日数（展示の後に感想や学んだことなどの意見を募る）、クロスカリキュラム（教科横断的に行われる授業）など。またプログラムの発展や応用の仕方の指南が掲載されたものが複数みられた。

(ii) 対象年齢

各プログラムに設定されている対象年齢を図 2 にまとめた。プログラムの記述において、対象年齢の下限に設定されている年齢を「対象年齢」として整理した。例えば、対象年齢が「未就学児童から小学校低学年」と記述されている場合は「未就学児」に分類した。記載されていた 85 例中 12 例が未就学児、49 例が小学生、12 例が中学生、4 例がその他（内訳：小さい子 2 例、子ども 2 例）、8 例が記述無しであった。思春期前～思春期（ここでは小学校高学年～高校生年代を思春期とする）が対象となるプログラムがほとんどを占めていた。

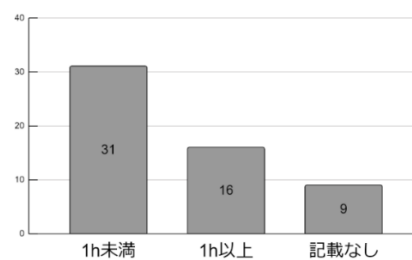


図 1: 所要時間別のプログラム件数

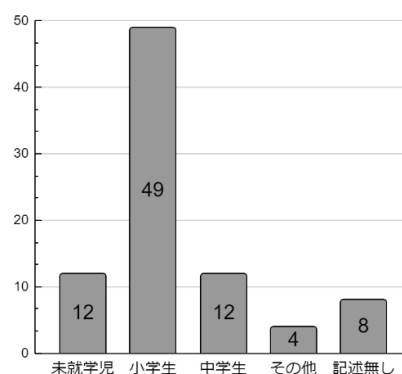


図 2: 対象年齢別プログラム件数

(iii) 教育技法と手順

教育的技法と手順において、コンセンサス学習、ケーススタディ、ロールプレイング、ブレインストーミング、創作活動（工作、作詞など）、ポスターセッション、シミュレーション、プランニング、ジグソー、フォトランゲージ、KJ 法（親和図法）、ゲームの計 12 の教育的技法が確認できた。その中から 2 つのプログラムを以下に示す。

表 1. 海外のプログラム事例 1

プログラム名	CHILDREN JUST LIKE ME: UNDERSTANDING GENDER EXPRESSION
対象年齢 所用時間	対象年齢：小学 3 年生 所要時間 35 分
教育技法	フォトランゲージ、創作活動
目的	生徒は本の音読を聞き、その意味を議論する。ジェンダー表現の概念を探求するためのクラス活動に参加する。
手順	1. 絵本「Children Just Like Me」を読み、話し合う 2. 自分が本当に好きな服や髪型を描く 3. クラスで共有する

	4. 学校では誰もが自分の喜びや快適さを感じるものを着ることができることを生徒に思い出させる。
--	---

表 2. 海外のプログラム事例 2

プログラム名	Introduction Teddy: ジェンダーと友情を理解する
対象年齢 所用時間	対象年齢：小学 3 年生 所要時間 40 分
教育技法	ケーススタディ
目的	トランスジェンダーの登場人物の物語を読み、それについて話し合いをする。性自認に関する用語を学ぶ。違いについて、アライであることについて学ぶ。
手順	1. 絵本『Introducing Teddy』を読む 2. 内容について話し合う ・親友のテディに「自分は女の子のテディなんだ」と言われた時、主人公はどんな反応をしましたか？ ・主人公は女の子であるテディと仲良しですか？ ・主人公の反応はテディをどう感じさせますか？ など

体験型の手法が多くみられたこと、また「自分らしさ」を表現するアクティビティが複数見られたことが特徴として挙げられる。多様な体験型手法をプログラムで用いることで、「聞く」だけの受け身の授業ではなく「考える」授業になっていた。本や雑誌を用いることでケーススタディを行った、身の回りの出来事を題材とし、ゲームやポスターセッションなど多様な手法を使用することにより、共感性や問題解決能力を育むものになっていた。また性の多様性を、他人のことではなく、「自分ごと」として扱うことを重視しているように思われた。それらにより、多面的な見方ができるようになることを目標としているのではないかな。その他、子どもに説明しやすい言葉で用語の解説がまとめて掲載しているもの、教員向け資料「ティーチャーズガイド」の記載があるものが確認できた。

4. 考察

海外のプログラム事例をまとめると、時間が短く設定されていること、低学年向けのものが多いこと、様々な手法が用いられること、教材が充実しているという特徴がみられた。

所要時間を短く設定することで小学校などの短い限られた時間内でも取り入れ易く、さらに小さい子が集中を維持したまま取り組めるように工夫がされていた。全体として学校などの教育現場に最適化されていた。

日本の学校教育での課題を整理すると、「プログラムが少ないこと」「教員の知識、理解不足」「校則（制服など）としての性別に関連した縛りがあること」などが挙げられる。これらの課題を解決するために、「教材を入手しやすい環境をつくること」「指導者の育成」「校則の改善」を提案したい。

まず教材を入手しやすい環境について、海外のプログラム事例では、教材のコピーや配布に制限がかけられていないものが多く、入手・使用が容易となっていたが、日本で同じようなキーワードで検索しても、インターネット上にあるプログラムは極端に少ない。インターネット以外では、書籍としてまとめられているプログラム集を確認することができたが、インターネットを活用することで資料の入手・配布が容易になると思われる。「ティーチャーズガイド」や「用語の解説」を合わせて掲示することで、プログラムの指導者の事前準備の時間が少なく済むこと、授業のポイントを整理しやすくなる効果が期待できるのではないかな。

次に指導者の育成については専門家の育成、現任教員への実践トレーニング、教員養成課程での実践トレーニング等が考えられる。また、海外のプログラムでみられた手法の多くは環境教育や国際理解教育などの分野でも用いられるものであった。このことから、教材が整えば、他分野で体験型のプログラムに取り組んでいる人材が、性の多様性教育を担うことも期待できる。

また、日本では制服や服装などの校則が、男女に分けて定められている場合が多く、性の多様性理解のための教育と矛盾が生じる可能性がある。今後議論していく必要があるだろう。もちろん配慮が必要な生徒には、その人にとって最善の対応をとるべきである。教員の力だけではなく外部とも連携を取ることで、学校生活の中に多様性の要素を組み込むことで教員の負担を減らしながら教育の普及を促すことが可能になることを期待したい。

5. 最後に

今回の研究結果に基づくものではないが、近年ではドラマやバラエティ番組などでセクシャルマイノリティについて好意的な描写が増えているように感じる。これはとても喜ばしいことであるが、一方で教育が追いついていないために、

誤った情報や理解の偏りが生じてもそれに気づくことができない危険性がある。誰もが安心して自分らしく生きられる世の中にするために、一刻も早く日本における性の多様性教育が普及することを願っている。

6. 引用・参考文献

- 1) 藤井良樹：LGBT 教育の現状と課題: 高校生のグループディスカッションをてがかりに. 金城学院大学論集. 社会科学編, 17(1), 13-25, 2020.
- 2) 李修京, 畠山佳穂, 城渚紗: '性の多様性'理解と'LGBT'認知のための教育. 東京学芸大学紀要. I = 人文社会科学系. *Bulletin of Tokyo Gakugei University*, 69, 127-143. 2018.
- 3) 厚生労働省:自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して
～:<<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/0000172329.pdf>>,2021.08.01 参照.
- 4) EdChange: Who We Are: EdChange
<<http://www.edchange.org/who.html>>,2022.02.14 参照
- 5) Human rights Resource Center : Who We Are : 5)
Human rights Resource Center< <http://hrrca.org/about-us/#vision-mission>>, 2022.01.14 参照.
- 6) Human rights Resource Center :INSTITUTIONAL
PROFILE: 6) Human rights Resource
Center<<http://hrrca.org/about-us/#institutional-profile>>,2022.02.01 参照.
- 7) Gender Identity Research & Education Society: Gender
Identity Research & Education
Society<<https://www.gires.org.uk/>>, 2022.02.01 参照.